

## 平成31年度年間授業計画

教科科目	教科:(工業) 科目:(情報技術基礎) 単位数:[ 2単位]				
教科担当	(4組: 森田 千々和)(5組: 鈴木 森田 )				
使用教科書:	情報技術基礎(オーム社)				
副教材等:					
期	月	指導内容	具体的な指導目標	評価の観点・方法	予定 時数
一 学 期	4	○コンピュータと情報化社会 ○情報化の進展と産業社会 ○情報化社会への対応	現在の高度情報化社会において、コンピュータは、身のまわりのありとあらゆる所に利用されている。また、その技術的進歩はもの凄いスピードである。情報技術に関する知識と技術を生徒に興味関心を持たせながら学習させる。	定期考査の点数、小テスト、課題、ノートの提出・授業への取組みを総合的に判断し、評価する。	22
	5	○コンピュータの取り扱いとソフトウェア ○コンピュータのハードウェア(データの表し方)	コンピュータの取り扱いやソフトウェアの種類は、生徒にとって身近なものであるが、もっと専門的に教える必要がある。また、ハードウェアについても知識と技術を生徒に興味関心を持たせながら学習させる。		
	6	○ワードプロセッサの利用 ○コンピュータのハードウェア	日本語ワードプロセッサは、生徒にとって身近なものであるが、もっと専門的に教える必要がある。また、ハードウェアについても知識と技術を生徒に興味関心を持たせながら学習させる。		
	7	○ワードプロセッサの利用 ○コンピュータのハードウェア	日本語ワードプロセッサは、生徒にとって身近なものであるが、もっと専門的に教える必要がある。また、ハードウェアについても知識と技術を生徒に興味関心を持たせながら学習させる。		
二 学 期	9	○ワードプロセッサの利用 ○Cによるプログラミング	日本語ワードプロセッサは、生徒にとって身近なものであるが、もっと専門的に教える必要がある。また、Cプログラムの特徴や簡単なプログラムを理解させ、情報技術検定3級の取得を目指す。		28
	10	○表計算ソフトウェアの利用 ○Cによるプログラミング	実際にコンピュータを使用させ、表計算ソフトの基本的な使い方や構成を興味・関心を持たせながら学習させる。また、Cプログラムの特徴や簡単なプログラムを理解させ、情報技術検定3級の取得を目指す。		
	11	○表計算ソフトウェアの利用 ○Cによるプログラミング	実際にコンピュータを使用させ、表計算ソフトの色々な機能を学習させる。また、Cプログラムの特徴や簡単なプログラムを理解させ、情報技術検定3級の取得を目指す。		
	12	処理装置と周辺装置 コンピュータ制御の概要 マルチメディアとコンピュータ通信	現在の高度情報化社会において、コンピュータがどのように使われているか、どのような場所で利用されているかを情報技術に関する知識と技術を生徒に興味関心を持たせながら学習させる。		
三 学 期	1	インターネット マルチメディアの概要 データ通信とネットワーク プログラミング	インターネットの概要や利用方法、データ通信の概要を情報技術に関する知識と技術を生徒に興味関心を持たせながら学習させる。	20	
	2	プログラミングの概要 Bによるプログラミング (ベーシック)	コンピュータプログラミングの基礎や概要、種類を学習すると共に、ベーシックプログラムを組めるように。学習させる。		
	3	順次形処理 選択形と反復形 処理 その他の処理	コンピュータにおける応用的な情報処理を情報技術に関する知識と技術を生徒に興味関心を持たせながら学習させる。		
					70